

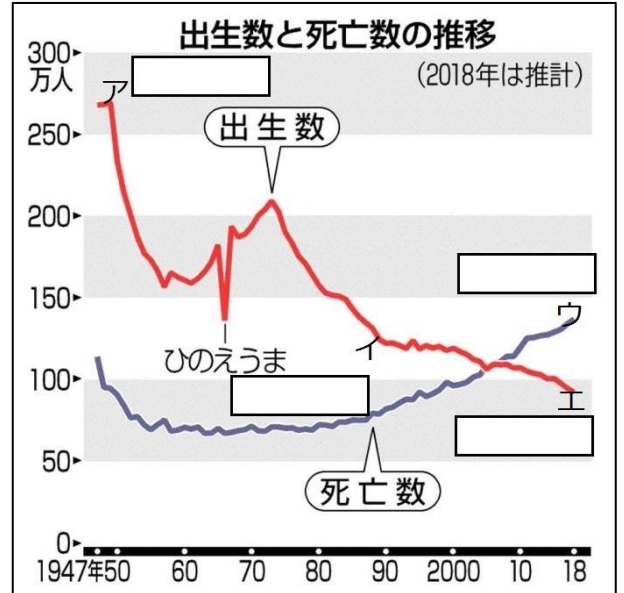
年 組 番
(名前)

<新聞記事から考えよう> 181222

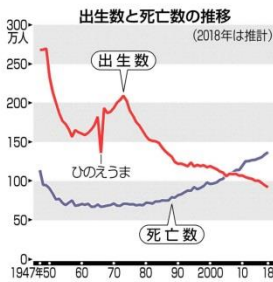


人口減最大 出生数最少 92万1000人

2018年に国内で生まれた赤ちゃんは1899年の統計開始から最少だった17年より2万5千人少ない92万1千人で、3年連続で100万人を割り込む見通しとなることが21日、厚生労働省が公表した人口動態統計の年間推計で分かった。亡くなった人は戦後最多の136万9千人で、死亡数から出生数を引いた人口の自然減は過去最大の44万8千人となるとみられる。少子化に歯止めがかからず、人口減が進む傾向が一層顕著になった。17年の女性1人が生涯に生む子どもの推定人数(合計特殊出生率)は1.43だったが、18年の出生率が大幅に上昇することは見込まず、政府が掲げる'25年度末までに出生率1.8の目標実現はさらに厳しくなった。平成が始まった1989年



出生数 最少 92万1000人



危機感、国民で共有を

明治大の加藤久和教授(人口経済学)の話 雇用が安定せず待機児童も解消しない現状では、将来への展望が持てず、若い人たちが子どもを持つと思えないだろう。数十年後には、医療や年金がこれまでのように受けられない可能性がある上に、若い世代の税負担が増すことも予想される。国はこうした危機感を共有するとともに、少子化対策への財政措置をさらに進める必要がある。一方で、少ない労働力で生産性を高めるために外国人や人工知能(AI)を活用したり、高齢者より子育て世帯への支援を手厚くしたりするなど、少子化に合わせた社会づくりも検討するべきだ。

人口減最大

の出生数は124万6802人で、平成の30年間で3割近く落ち込んだこととなる。厚生労働省は18年の出生数が減ったことについて「出産適齢期とされる25~39歳の女性の数が減っていることも影響しているのではないかと推定している」としている。日本の人口は05年に死亡数を上回り、自然減に転じた。06年にいったん出生数が上回ったものの、07年以降は再び自然減となり、12年連続減少している。統計開始後、出生数が最多だったのは1949年の269万6638人。年間200万人を超えていた70年代の第2次ベビーブームの後、減少傾向に。84年に150万人、05年に110万人を割り込み、16年に97万6978人と初めて100万人を下回った。

18年推計 死亡 戦後最多 136万人

◎記事から読み取ろう

○次の人数は何人ですか。

(1) 2018年中に生まれた赤ちゃんは

_____人
(2017年より_____人 増・減)

(2) 2018年中に亡くなった人は人
(戦後 最多・最少)

(佐賀新聞 2018.12.22 付)

(3) 死亡数 - 出生数 = 自然減 は、 _____人 (過去 最多・最少)

(4) 平成元年(1989年)の出生数は、 _____人 (30年間で 割減)

(5) 出生数が最多だったのは、 _____人 (_____年)

○グラフ中のア~エは、(1)~(5)のどれに当てはまるでしょうか。番号や数字を に記入しよう。

広げよう・深めよう

◎自分の考えをまとめよう

*友だちと意見交換したり、家族と話し合ったりしよう。

○加藤さんは、「少子化に合わせた社会づくりを検討するべきだ」と述べています。「少子化に合わせた社会」とは、どのような社会だと考えますか。